

【参考】生産現場におけるこれまでの対応

- カドミウムの吸収を抑制するため、**出穂期前後(7月中旬～8月下旬)に、田んぼに水を張る「湛水管理」**を続けています。
- 湛水管理は、毎日の水田の見回りや、収穫期に田んぼが乾かず収穫機械がめかるなど、作業に苦勞する生産者が多くいます。
- 集荷された米は、**JA等が調査し、基準値以下の安全な米のみを出荷・販売**しています。もし、**基準値を超える米があった場合は、県が買い取りし、市場流通から隔離して適切に処分**しています。
- これからも、安全で美味しい秋田県産米を御愛顧いただけるよう、生産者、集荷団体、行政が一体となって取り組んでまいります。

「あきたこまちR」の質問にお答えします

質問① なぜ、秋田県は「あきたこまち」から「あきたこまちR」に切り替えるのですか

- 海外では、より厳しい**カドミウム**基準値を設定している国が多く、今後、海外の基準に合わせて、**国内基準値が厳しくなっても対応できるようにする必要があります。**
- また、ヒ素の基準値を設定している国もあり、新たに国内基準値が設定されても、**ヒ素の吸収を抑える栽培管理が可能となります。**
- **将来を見据え、より厳しい基準になっても、引き続き「米どころ秋田」として、より安全な米の生産・供給ができるようにするため、「あきたこまちR」へ切替えます。**



質問② 精米袋の表示はどうなりますか

- **「あきたこまちR」は、「あきたこまち」と米の外観や品質、食味に差がないため、関係者の合意を得た上で、同一の銘柄として取り扱うことができます。**この場合は、**「あきたこまちR」の精米袋の銘柄表示は、「あきたこまち」となります。**

質問③ 放射線育種による米ですか

- **放射線を照射して育成した米ではありません。**
「あきたこまちR」は、「交配育種」による米です。



- ※ **「コシヒカリ環1号」は、コシヒカリの種子に1度だけ放射線を照射して突然変異を誘発し、カドミウム低吸収性を持つ株を6世代以上栽培して、選抜を繰り返し育成された品種です。**
- ※ 放射線育種は、50年以上も前から多くの農作物の品種改良に用いられ、自然界でも起きる突然変異を利用した**一般的な育種法**です。
- ※ 具体的には、水稻では、冷害に強い「レイメイ」、倒れにくい「北陸100号」等の開発をきっかけに、それらを先祖にもつ「アキヒカリ」、「キヌヒカリ」など、多くの品種が育成され、**現在、国内で生産される多くの水稻品種が、放射線育種由来**となっています。
- ※ さらに、大豆や野菜、果樹等でも様々な品種が育成され、一般的に流通し食べられています。
- ※ もちろん、**安全性に問題はなく、有機栽培としても認められます。**

「あきたこまちR」生産・販売推進本部

問い合わせ先：秋田県農林水産部水田総合利用課
TEL：018-860-1785

J A 全農あきた米穀部米穀販売課
TEL：018-845-8040

秋田県主食集荷商業協同組合業務部業務課
TEL：018-893-3100